

いま、会いにゆきます

2004(平成16)年10月18日鑑賞(東宝試写室)

★★★★



監督＝土井裕泰／原作＝市川拓司／出演＝竹内結子／中村獅童／武井証／市川実日子／YOU（東宝配給／2004年日本映画／120分）

……『冬ソナ』をはじめとする韓流ドラマが大はやりだが、日本風純愛ドラマも負けてはいない。竹内結子と中村獅童のコンビで描く、この世のものは思われぬ(?) ちょっと変わった純愛は、涙を誘うファンタスティックなもの。そして、そこに子役を絡ませると、涙の量も倍増(?) だ。『世界の中心で、愛をさけぶ』に続いて、大ヒットしてほしいものだが……? それにしても、はじめて観た竹内結子の美しさには、ずっとうっとり……。

今なぜ純愛ブーム

今日本は、映画でもテレビドラマでも、『冬ソナ』をはじめとして、「韓流」の嵐が吹き荒れており、とどまるところを知らない様相を呈している。この韓国流純愛ドラマが、日本人に「ウケた」理由や背景は、既にいろいろと分析されているのでここには書かないが、ブームの根源は女性の人気が!

『いま、会いにゆきます』のテーマは、ちょっと非現実的なものだが、そこに描かれている夫婦愛や親子愛は、多分人間社会において永遠不滅のもの。またそうだからこそ、こういうテーマは一定の周期や、ある時代状況に応じてくり返しブームになるのかも……?

戦後60年を迎えようとしながら、バブル崩壊後の経済不況の中で、すべての分野において、日本国の進むべき方向性を見出せず、何となく内向的になっている現在の日本国民には、ちょうどこんな純愛モノに目を向け、満足しているのが「お手ごろ」なのかもしれないが……?

原作は？

この映画の原作は、インターネット小説『Separation』で作家デビューした市川拓司の第2作『いま、会いにゆきます』（小学館刊）。この本は、売り上げ171万部を達成した片山恭一の『世界の中心で、愛をさけぶ』（小学館刊）ほどの大爆発（？）はしなかったものの、2003年3月の発売以来、1年余りで発行部数45万部を突破したとのこと。

チラチラと聞こえてきた観客席の話では、「原作を読んで泣いた」という声もあったが……。

芸達者な中村獅童に拍手！

歌舞伎界の若手のホープ中村獅童は、最近映画界でも大活躍。『恋人はスナイパー 劇場版』（04年）では、ヘンな悪役（？）を大熱演したが、日本アカデミー賞優秀助演男優賞を獲得した『阿修羅のごとく』（03年）での名演技は特筆モノだった。

そして、この『いま、会いにゆきます』における中村獅童演ずる主人公、秋穂あきお巧たくみも、この『阿修羅のごとく』において三女竹沢滝子（深津絵里）の「彼氏」として登場する勝又静男と同じ系譜で、ちょっとヘンな男（？）。天才的な俳優は、どんなケツタイな役でもその役になりきれものだと、ほとんど感心。この映画を根本から支えているのは、まさにこの中村獅童の名演技。

はじめて観た竹内結子の美しさにうっとり！

もう1人、というよりこの映画の「悲劇のヒロイン」秋穂あきお澪みおを演ずるのは、竹内結子。ポスターやチラシそして予告編でこの竹内結子という女優を見て、私好み（？）の顔立ち、そして清楚で美しいイメージの女優だと思っていたら、その期待どおり。「美しい女優大好き人間」の私は、それだけで大感激！

この映画は「純愛ドラマ」だから、キスシーンも抱擁シーンも、そして唯一のベッドシーンも清純そのものだが、スケベ親父の私でも何ら物足りなさを感じることなく、むしろ私の心の奥底にある（？）純愛願望心理が目覚めたのか（？）、

途中からはハンカチを片手に……。

この映画のヒロインは結構難しい役柄。なぜなら、いったん死んだ人間が梅雨の季節の6週間だけ、夫と息子の元に現れ、そして去っていくという幻想的なストーリーなのだから……。

ポイントの子役とその先生役は？

この映画では、6歳の息子秋穂^{あいおゆうじ}佑司君がポイントだが、この佑司君を演ずるのは、1997年生まれの7歳になる武井証。豊川悦司主演の2004年の映画『丹下左膳百万両の壺』に登場した注目の子役だが、この映画では見事な存在感を見せている。

そして、チョイ役(?)ながらこの佑司君の先生役として登場するのが、あの『誰も知らない』(04年)で大いに注目された私の大好きな YOU。ここでもいい味を出している……。

重要な3つの小道具——1本のサインペン、絵本、そしてダイアリー

この映画では、①高校時代、なぜか隣の席に座ることになった巧と滯を、高校卒業後結びつけることになった1本のサインペン、②滯と佑司との母子間の心の語りいになるとともに、映画の大きなテーマとなった『アーカイブ星』の絵本、③映画のラストで「再現」される、巧と滯との恋の裏話(?)に重要な役割を果たす滯のダイアリー、という3つの小道具が重要な役割を果たしている。

静かに淡々と描かれるスクリーン上において、巧と滯との恋愛模様の展開に、これらの小道具がいかに重要な役割を果たしているのかを観るのも楽しいだろう……。

2004(平成16)年10月18日記